

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教職実践演習（栄養教諭二種） Teaching Practice Seminar		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	（教職課程必修：栄養教諭二種免許）	栄養士フィールド教職課程履修者 2年生
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
栄養教諭論、栄養教育実習事前事後指導、栄養教育実習				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目ならびに栄養教諭二種免許取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
(主) 駒場啓子、松崎勇人、藤田 睦、野中春奈	担当教員の研究室	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
教職ポートフォリオ（学習の履歴、実習記録、実習評価表等）に基づく反省と考察を加え、特に、①学習指導力、②児童生徒指導力、③調整力、④学校・学級経営力の4つの視点から教職実践力をとらえ、教職の理解とその実践力の習得を図る。				
授業の目標				
①教育に対する健全な使命感、責任感、情熱を持って、児童・生徒と共に学び、成長しようとする態度を身に付けることができるようにする。 ②教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができるようにする。 ③児童・生徒の発達や心身の状況を適切に把握し、生きる力を育む指導を行うことができるようにする。 ④栄養教育の目的・内容・方法についての基本的事項を再度確認し、食に関する指導に応用することができるようにする。				
授業の方法				
授業の進め方は、主に演習形式で行う。講義、講演、模擬授業（役割演技を含む）、実技指導、ディスカッション、事例研究、発表、まとめ等の方法を組み合わせながら取り入れ、教職実践力の習得を図る。				
学習の成果（学習成果）				
①誠実、公平かつ責任感をもって児童・生徒に接し、共に成長しようとする意識を持って、自己の職責を自発的、積極的に果たそうとする姿勢を身に付けることができる。 ②社会人としての基本を身に付けるとともに、相互に連携・協力しながら、課題に対処することができる。 ③児童・生徒の特性や心身の状況をとらえ、児童・生徒が食に関する自己管理能力を身につけようとする態度を育てることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明、教職実践演習の目的と進め方 研究課題の設定 <担当：駒場>			
第2回目	教育経営について（講演・討論・まとめ）、学校経営、学級経営、学年・学校行事の経営の理解 <担当：松崎>			
第3回目	外部講師による講演：テーマ「児童生徒理解について」（佐野市教育委員会） *レポート（提出は第3回目の授業日）			
第4回目	外部講師による講演：テーマ「現代社会の教育諸問題と教職の課題」（佐野日本大学中高教育学校長） *レポート（提出は第4回目の授業日）			
第5回目	改正教育基本法・学校教育法と学習指導要領（講義・討論・まとめ） <担当：野中>			
第6回目	食に関する指導の計画・実施・評価 I（食に関する指導の全体計画の作成） <担当：駒場>			

第7回目	食に関する指導の計画・実施・評価Ⅱ（学校給食年間指導計画の作成）　　<担当：駒場>	
第8回目	食に関する指導の計画・実施・評価Ⅲ（指導案の作成）　　<担当：駒場>	
第9回目	児童・生徒の栄養上の課題と学校・家庭・地域との連携（講義・討論・まとめ）　　<担当：藤田>	
第10回目	外部講師による講演：テーマ「個別栄養相談・指導の現状」（栄養教諭）　　*レポート（提出は第11回目の授業日）	
第11回目	「食に関する指導」の模擬授業Ⅰ（役割演技・討論・まとめ）　　学校給食を「生きた教材」として活用し効果的な指導を行う。　　<担当：駒場>	
第12回目	「食に関する指導」の模擬授業Ⅱ（役割演技・討論・まとめ）　　小学校第1・2学年、第3・4学年を対象に文部科学省食生活学習教材を活用した授業を行う。　　<担当：駒場>	
第13回目	「食に関する指導」の模擬授業Ⅲ（役割演技・討論・まとめ）　　小学校第5・6学年、中学生を対象に文部科学省食生活学習教材を活用した授業を行う。　　<担当：駒場>	
第14回目	「食に関する指導」の模擬授業Ⅳ（役割演技・討論・まとめ）　　家庭科や体育科（保健）等で日本型食生活を見直させ、生活習慣病予防の重要性について指導する。　　<担当：駒場>	
第15回目	研究発表（成果と課題）　　<担当：野中、駒場>	
事前・事後学習	外部講師の講演等で不明であったことは図書館等で調べておくこと。。模擬授業にあたっては、教材研究や媒体準備をしっかりと行って臨むこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、必要なことはきちんとノートにとる。不明な点があれば積極的に質問する。（詳細はガイダンス時に説明する。）
レポート	40%	S=90-100　A=80-89　B=70-79　C=60-69　D=59-0　Sのレポートは、詳細に課題を探求し、内容構成がしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。（詳細はガイダンス時）
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	40%	適切かつ正確な資料を用いることによって理解の深さを示す。誰もが聞き取れるように、明瞭に大きな声で発表する。（詳細はガイダンス時に説明する。）
その他		
教科書と参考図書		
授業担当者より適宜指示する		
履修上の留意点・ルール		
目的意識をもって、意欲的、積極的に授業に臨むこと。　　*講義の内容や順番については変更の場合もある。		